第６回　　環境分科会　会議記録

開催：2020 年 11 月 11 日（火）　　時間：16:00-17:15

場所：　社総合庁舎　入札室

参加者：９名

氏名：

内容：

１．　前回（マイクロプラスチック・ストーリー）ふりかえり

皆さんのコメント（無記名化）をまとめたものを配布

特に追加コメントなどなかった

２．　スポごみのご紹介

Web サイトの印刷物を配布し、概要のご紹介のみ

単なるゴミ拾いではなく、run と組み合わせて、タイムと拾ったごみの重量で順位を競う

→こういったスポーツ大会の企画をするのも面白い

３．　委員○○さんの構想をお話いただき、ディスカッション

間伐材など林地残材をつかったエネルギーの活用

→○○さん宅では、薪ストーブを使用しているが、初期コストが高い、薪の準備に灰の処分などに手がかかるなどの指摘があった⇔森林組合から提供された林地残材を提供し、灰の引き取りをおこなって様子を見てはどうか

→小規模ボイラーは発電効率が良くないので、熱電併給（木質バイオマス）

→10 世帯ほどの小規模集落でのエネルギー地産地消

→経済性に課題あるのでは？⇔経済性よりも課題解決を優先すべき

→地域通貨の発行で解決できる？

→日本の焼却炉は性能が良いので、プラも含めて、最終的には各家庭で処理できれば、プラごみの排出がなくなる⇔償却する以上、CO2 排出があり、温暖化抑制に逆行しないか？

→ごみの処分よりも出さない、減らす方向を検討すべきではないか

→法令の問題⇔規制は条例なので、各行政団体で決めていいのでは？

　→条例ではなく、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で規制

→国の政策（原発）

簡単に方向性を決められることではないので、継続して案のブラッシュアップをし

ていただき、みんなで考えていきたい

また、この提案はエネルギーの地産地消とごみの処分とに分けて考えたほうがよい
エネルギーの地産地消（木質バイオマス）は、市単位では岡山県真庭市、
地域単位では、飛騨高山グリーンヒート合同会社の例が参考になる
同市吉永副市長、同社谷淵さんに話を聞きに行くことができる
ごみの焼却については、法令含めハードルが高いので、有効な案とするためには
相当クリアすべきことがあると考えます

４．　次回、県立神戸商業高校　石川教諭を招聘し、同校理科部の活動報告と、市民レベルで取り組めるヒントをお話しいただく
（石川教諭の承諾は得ました）
石川教諭との調整で、12 月 11 日（金）16 時から開催します

以上